

## ローカル5Gを活用した高速大容量データ通信及び高速走行車両検知技術の実証

## 実施体制

(下線：代表機関)

日本電気(株)、BOLDLY(株)、(株)ティアフォー、小松市

## 実証地域

石川県小松市

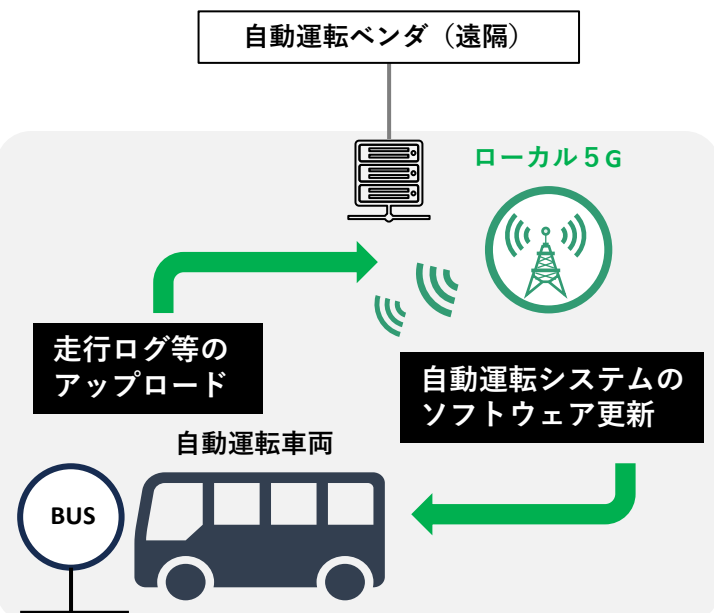
## 実証概要

北陸新幹線小松駅の開業を契機として、日本海側の拠点都市の形成に向けて交通結節機能を強化すべく、小松駅～小松空港間の輸送の自動運転化を進めており、2025年度以降早期のレベル4運行を目指している。

- ▶ 自動運転車両の運用に影響を及ぼす自動運転システムのセキュリティ更新等を短時間で遂行するため、ローカル5Gの活用による、**大容量データの通信を停車中に効率よく行う技術**の実証を行う。
- ▶ レベル4実現の大きな支障である、**交差側の車両速度が速い無信号丁字路**において、交差点から最大300m程度の遠方車両を検知し、周囲を走行する自動運転車両を対象に広範囲に配信する。

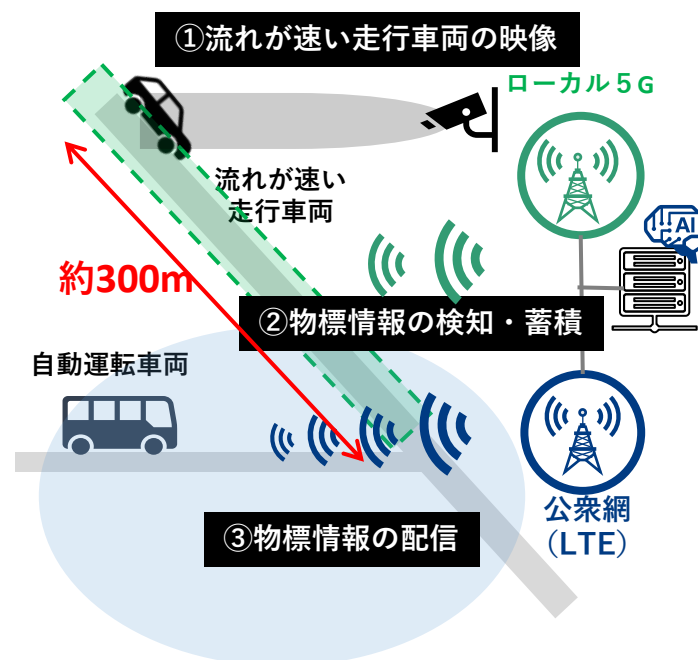
## 1. 自動運転システム・ソフトウェアの更新短縮化

ローカル5Gの活用により、自動運転システムのソフトウェアの高速更新及び停車中の走行ログ等の高速アップロードのため、20GB程度の大容量データの通信を30分以内で実現する。



## 2. ローカル5G活用による走行車両の検知及び検知情報の広域配信

交差側の車両速度が速い無信号丁字路において、交差点から最大300m程度の遠方車両をAIカメラにより検知し、自動運転車両を対象とした広範囲の配信を目指し、技術を実証する。



## 走行ルート

小松駅と小松空港を結ぶルート(レール&フライト)



出典：地理院地図

## 自動運転車両

Minibus(株)ティアフォー製自動運転EVバス  
定員16名(自動運転走行時)

